

伊東市教育委員会定例会会議録

1 日 時 令和5年11月21日（木曜日）

午後2時30分～午後3時40分

2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室

3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏

委 員 沼田 芳美 委 員 遠山 泰範

委 員 辻 恵

4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生

教育指導課長 関野 耕一 幼児教育課長 鈴木 慎一

生涯学習課長 山下 匡弘

5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主事 松岡 翔太

6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会11月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、教育長報告を行う。11月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

10月25日 公平委員委嘱状交付式、政策会議

26日 静東教育事務所所長来庁

27日 静岡県教職員組合執行委員長来庁

28日 伊東ビックバンドJAZZフェスティバル

29日 市芸術祭日舞の部

30日 タウンミーティング（吉田）

31日 分譲地自治会役員との懇談会

- 11月 1日 市内一斉あいさつ運動（伊東駅）、
大学コンソーシアム理事来庁、
「あいさつ運動」功労者感謝状贈呈
- 2日 吉田幼稚園訪問
- 3日 全国中学生都道府県対抗野球大会 i n 伊豆
- 4日 MOA美術館伊東市児童作品展
- 5日 わたしの主張発表会
- 7日 校長会、タウンミーティング（池）
- 8日 幼稚園PTA連絡会教育講演会
- 9日 市消防総合演習（八幡野小）
- 10日 市教育委員会指定研究発表会（北中）、政策会議
- 11日 西ロータリークラブ45周年記念式典
- 13日 教職員組合東豆支部長来庁
- 14日 タウンミーティング（八幡野）
- 15日 給食センター施設訪問、空手世界選手権入賞者表敬訪問
- 16日 教頭会、東豆学生協組合役員来庁
- 17日 伊東市青少年問題協議会、育成支援強調街頭キャンペーン
- 18日 税に関する作品表彰式、
川奈ホテルSDGsを考えるクリスマスイベント
- 20日 外国語指導者配置事業派遣業者選定委員会、
新図書館建設要望
- 21日 教育委員会定例会、姉妹都市交換文芸表彰式、
タウンミーティング（富戸）、市芸術祭表彰式

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：それでは、各委員からの報告をお願いします。

委員：11月5日のわたしの主張発表会に行かせていただいた。感想だが、教育長も言われたように、ひとりひとりがしっかりと自分の思いを主張されていた。豊かな表情で穏やかに話す子が多かった。SNSやAIなどの話題も取り入れられ、時代の変化を感じた。テーマで似通った内容はなく、どのようなことを話すのか、大変興味を持てた。やはり代表で出てくるだけあって、とてもしっかりしていると思う。今回もオーディエンス賞があり、この賞は聞いている人たちにも緊張感を与えている。なんとなく聞くのではなく、どの子が輝いたか考えながら見ることができる。今年は短かったような気がした。1人5分程度で、前はもう少し長かったような気がする。自分の聞き方が悪かったかもしれないが、終わり方、まとめがはっきりせず、投げかけで終わってしまっていた子がいた。もう少し持ち時間が長いと、違うのかなとも思う。最後に関野教育指導課長が一人一人講評をしており、短時間で的確にまとめられており、すごいなと思った。続いて、先週、教育委員の研修会が、富士市のホテルであり、行かせていただいた。第1部の講話では、パナマ運河の建設に関わった青山^{あきら}士さんという方が、磐田市出身ということで、そういった方が地元にいるということを、大事に教育の中に取り入れて欲しいという話があった。講話が専門家の方からで、ものすごく専門的な内容で、一生懸命話してくださっていた。聞く側としては、そこを教育委員の立場で繋げていくことは、なかなか難しいなと思った。ただ、地元出身の功績を残した方を大事にしていくべきだと思った。第2部では、部活の地域連携についての講話があり、これも資料が膨大で、県教育委員会の方が一生懸命に説明されていた。部活は基礎的人間力をつける大事な場なので、地域と連携して地域に入って来てもらう方法もあるか

もしれないが、きめ細かに見ていく必要があると、私は思った。続いて、昨日の給食は大変美味しかった。最後のアンケートにも、たくさん二重丸をつけさせていただいた。子どもたちも給食に慣れてきたようで、安定して食べていた。私は5歳児のクラスで食べさせていただいたので、余計にそう感じたのかもしれない。少し大変そうに感じたのは、先生が盛り付けられた量を、園児それぞれに調整をしておられた。ただ、配膳員、用務員、補助員と、手伝いの手がたくさんあり、良いことだと思った。子どもの数も少ないので、テーブルに余裕があり、そういったところも良いと思った。女の子が3人、どれから食べようかと話しており、お弁当と違う、みんなで一緒にものを食べる利点が見られてよかった。

委員：9日の県の教育委員の研修会は今、委員がおっしゃったような内容だった。昨日の八幡野幼稚園の給食では、5歳児グループに入れさせてもらった。感想は、普段食べている味付けからすると薄いのが、とても美味しくいただけた。気になったこととして、子どもたちに好き嫌いが多いかなと感じた。昨日はごぼうとお肉の炊き込みご飯、トマトとレタスのスープ、ジャガイモと肉の揚げ物だったが、グリンピースが嫌い、トマトが嫌いなど、野菜嫌いの子が多かった。中には頑張ってチャレンジする子もいて、食べることができた子もいたが、やはり最後まで手を付けられず、残してしまう子もいた。先生に聞いたところ、学年が上がれば上がるほど、好き嫌が多くて食べられない、とおっしゃっていた。既にある程度食生活が出来上がってしまっているということだ。3歳児の方が、人が作ったものを食べるということに順応して、あまり好き嫌いが少ないとのことだった。一緒に食べた児童に、デリバリー給食とこの給食とどちらがいいかと聞いたところ、どっちもいいという子、給食の方がいいという子、どちらもいた。来年、小学校に入学して、学校給食が始まった際、こうして慣

れている状態であれば、スムーズにいくのではないかと思います、良い取り組みだと思った。具材もたくさん使われており、栄養をよく考えた献立だった。野菜もたくさん使われていて、食材の多さにびっくりした。おいしくいただいた。

委員：10月27日に南中学校の文化祭へ行かせていただいた。とても良い雰囲気、各クラスが一生懸命にまとまって頑張っていることが感じられた。生徒たちの笑顔が多かったことが印象的だった。付随して、先生と生徒の距離が非常に近いという印象を受け、学校生活が充実していることが分かり、とてもよかった。昨日の給食試食会は、食材の味がわかる味付けで、すごく素晴らしいと思った。先生が、それに合わせて、「今日はゴボウが入っていて、みんな、その味は分かるかな。」と問いかけていた。食材一つ一つに対して、味の感想が持てるような食育はすごいことだと思った。先生たちも給食に対して、うまく対応されている。また、先生方が子どもたちをよく把握されていると思った。配膳から食べるまでの調整が大変だが、配膳を減らす子、増やす子をよく把握されており、ピンポイントに目を配られていた。大変なことだが、すごく頑張られていた。

委員：9日に教育委員会の研修会へ出席させていただいた。約90名の参加者で、内容については、先ほど委員が報告したとおりで、2部の方、県教育委員会の方の報告内容については、資料が非常に細かくまとめてあった。その場では、内容についてきちんと理解できなかったが、読み返せば、良い資料だと思うので、またじっくり見てみたい。それから、昨日の給食試食会では、デリバリー給食よりも手が込んでおり、小学校の給食から細かい刻みにして食べやすくするなど、そういった気遣い、市直轄での素早い対応は非常に良いと思った。私は、3歳グループで食べさせてもらったが、普段は食べるのが早いので、子どものペースに合わせるのが大変だった。4、5歳児は、黙って食べている子

が多かったと聞くが、3歳児の子は、いろいろとお話をしながら、最終的には完食していた。本当に大勢の方が支援しており、食べる量が多い子、少ない子が分かっており、いいなと思う。また、廊下入り口には保護者からの感想が貼ってあり、結構お褒めのコメントがあり、良かった。これから近くの幼稚園にも広げていければよいなと思う。

高橋教育長：いろいろな視点で話をしていただき、ありがとうございます。課長から何かあるか。

鈴木幼児教育課長：本当は自分も行っ、一緒に給食を食べたかったが所用で行けず、申し訳ありません。本日、皆様から感想をいただき、準備は大変だったが、先生方が園児の為に一生懸命準備をし、一丸となって給食を提供している様子が、伝わってきた。引き続き、委員からも要望があったとおり、池幼稚園や他の幼稚園へと拡大して、推し進めていきたい。3歳児が、給食には抵抗がなく、率先して食べる傾向にあるので、科学的な根拠はわからないが、早めの集団給食で好き嫌いを減らしていくことに繋がっていくのかと思うので、他園でも実践していきたい。

委員：給食の中で、子どもが一生懸命食べると、先生は拍手して褒めていて、そういった効果が大きいのだと思った。最後は完食できるように量を調整して配膳されているのも印象的だった。残すのではなく、食べ終わったことに配慮されており、見ていて素晴らしいと思った。

委員：栄養士が各クラスを回って、声掛けをしており、幼稚園生に食べやすいか確かめていた。きめ細かく、すごいなと思った。

鈴木幼児教育課長：幼稚園専属の栄養士を給食開始に当たり雇用し、配属は八幡野幼稚園1園なので、そういった形で回っている。献立を立てるのは小学校の栄養士だが、それを幼稚園の栄養士が幼稚園用に変えて、幼小で打ち合わせ

をしながら行っている。他の園で拡大した場合、各園で栄養士を雇うことは難しいので、巡回をするイメージでやっていきたい。

高橋教育長：また、教育委員の皆さんには、いろいろな現場を見ていただく機会があればと思う。給食や小中学校の授業など、子どもたちの意見が聞ける機会を作っていきたい。要望があれば言っていきたい。

高橋教育長：次に議題に入る。始めに、報告事項、教報第10号「旅館業許可申請に係る意見について」を議題とする。

（事務局から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：令和5年度伊東市教育機関職員採用試験について、先月、幼稚園教諭の二次募集を行うと報告させていただいたが、11月2日までの締め切りで、1名の応募があった。去る11月18日に一次試験を実施した。本来であれば、一次試験はSPI試験と作文になっているが、採用計画に対して時間がないことから、併せて一次面接を行った。今後の日程としては、12月5日に試験委員会を開催し、そこで合格となった場合、12月16日に二次面接を行い、年内には受験者の可否を決定してまいりたい。

関野教育指導課長：生徒指導について報告する。問題行動について、小学校は昨年比で減少、中学校は増加している。累計でも小学校は昨年比で減少傾向、中学校は微増となる。内容として、小学校は、特定の児童に対する悪口暴言、また特定児童による対教師暴力が数件報告されている。教師暴力には暴言等も含まれているので、小学生が直接教員に手を挙げて怪我をしたとかいうことで

はない。ただ、そういった状況でも強く叱る、力任せの指導をすることはできないことから、複数で対応をしている。また、周りの子に影響が出ないように、組織ぐるみで協力体制を築き、対応している。中学校については、幼さから見られる問題行動やネットトラブルが報告されている。自分の言動が周囲にどう影響を与えるか、考えていないようなケースがある。また、その結果が出た後、それを反省するようなケースが多くなっていると報告があった。いじめについては、小学校では、普段の学校生活の中で見られる嫌がらせ悪口を、教員がいじめと認知して対応していることがあった。中学校では、問題行動そのものから、いじめに繋がっていると判断した報告がある。大まかな傾向として、中学校のいじめは、段々と見えにくくなり、被害者も学校に言いづらい環境が出来ているので、教員のアンテナを高くするとともに、相談できる体制作りに努めていきたい。最後に不登校について、小中ともに行事が多く、行事を利用して不登校の回数が減ってきている。ただ、その行事が終わった後の対応によって、再び休みがちになってしまうので、子どもひとりひとりに合わせた指導をしていきたい。中学3年生は進路決定に向け、気が立ち、行かなきゃという思いが強くなる場所である。あまり大きなプレッシャーとなって、不登校につながるよう、学校で指導していきたい。次に、本日、パンダ通信を配布させていただいた。前回、委員からご報告のあった声かけ事案について確認したところ、このパンダ通信、生涯学習課からパンダの家向けに出されているものだが、そこに記載があった。本来パンダ通信はパンダの家だけに配られ、生涯学習課からケースを周知する意味合いで掲載しているが、伊東小学校がパンダの家だけでなく、地区に回覧をしてしまったことから、回覧を見た方がご相談されたのだと思う。小学校には、誤解を受けるケースがあるので気を付けるよう指導をさせていただいた。

鈴木幼児教育課長：口頭にはなるが、令和6年度の保育所入所申し込み状況について報告する。前回の定例会で幼稚園について報告したが、保育園についても状況がまとまった。今年度につきましては、10月2日月曜日から10月13日金曜日まで、例年通り2週間、10日間の受付期間を設けた。昨年度917人の申し込みに対し、863人の申し込みがあった。54人減っているが、1歳児の申し込みが昨年度148人に対し、今年度124人。2歳児の申し込みが昨年度143人に対し、今年度124人となり、1歳児2歳児の減少が大きい。園の受け皿と、申し込みの状況が減っているということもあり、この後、在園児を中心に、新規の方、兄弟で入る方、また、家庭の状況、就労状況等を加味し、保育の必要性を12点という形でつけ、順位点の高い家庭を優先に、入所調整を図っていく。昨年度から、第1希望や調整がついた園との面談を、12月に予定している。こういったご家庭で、どういうお子さんか、まず1度面談を行い、それで大丈夫ということであれば、1月末に決定通知を送送する。最終的には1人の待機児童を出さないよう、調整を進めていく。ただ一方で、不承諾で入れなかったという証明で、育休を伸ばしたいという申請もあるところであり、申し込み人数と入所人数に差が出てしまう。また、本市の場合は、妊娠中のお母さんも申し込みができる。例えば来年1月出産予定の方なども入所申し込みをしているので、すべてを決定するのが難しい状況にある。家庭の状況と申請の希望、入所の時期を見ながら、最善の入所調整をしていきたいと考えている。

山下生涯学習課長：生涯学習課から6点報告をさせていただく。まず、1点目として、去る11月11日に図書館の討論会の第2回目が宇佐美コミセンで開催された。参加者は40人程度だった。まず、市長から新図書館の説明をさせていただき、次いで地域の図書館というテーマで磯井純充氏の講演、生涯学習

課から新図書館の説明、宇佐美で私立図書館を運営する鈴木氏の話、西小学校に図書館をとという内容で木梨氏の話、最後に出席者によるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションにあまり時間を取れず、会場に来た市民の皆さんから集められた質問票に答える形で進行した。市への質問として、学校との連携や建設費についてのお答えをした。講師の磯井氏からは、市の計画はよく練られたもので、市と市民の関係は対立構造として捉えるものではない旨の発言をいただいた。2点目は、第58回オレンジビーチマラソンについて、先週金曜日に受付を締め切り、1,805人からエントリーをいただき、昨年比118.8%となっている。この他スポンサーからの参加者が加わり、最終的には1,850人前後の参加になると予想している。3点目は伊東市文化財管理センターにおいて企画展「戦国時代の伊東」を開催している。北条の時代から徳川の時代まで、その間伊東で何があったのか、資料から読み解く企画展となっている。4点目は、第24回しずおか市町対抗駅伝について、12月2日午前10時号砲で、県庁前から草薙陸上競技場までの12区間で実施する。今回は応援バスが出るとのことで、例年よりも多い応援を期待している。5点目は、来年1月28日に伊東市文化講演会として、2015年にノーベル生理学医学賞を受賞した北里大学特別荣誉教授の大村智氏を迎えて、「北里柴三郎の実学の思想と私の研究」というテーマでご講演をいただく。観光会館で開催するが、当日藤の広場でめちゃくちゃ市も開催しているので、ご家族ご友人お誘い合わせの上、ご来場いただければと思う。最後に、新図書館について報告する。新図書館の建設について、入札時期を見極めるとしていたが、物価や人件費の高騰により、37億円での建設が困難との結論に至った。今後の手段として、予算の増額、あるいは規模の縮小という二つの方法が考えられるが、予算の増額については、補助金の上乗せが見込まれないこと、市民の負担が増

えることから、現設計を活かした上で、規模縮小とすることとしたのでご報告させていただきます。なお、この件については、明日、市議会の各会派代表と会派へ所属しない議員に対し、市長から報告させていただくとともに、11月27日の定例記者会見で発表することとなっているので、各委員におかれましては、27日までは公表しないようお願いしたい。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：教育指導課のパンダ通信の件はありがとうございました。おそらく、この件かと思う。市民の方から、声をかけるだけでもそう思われてしまうのかと心配の声があったことをお伝えしたところ、こうやって対応していただけた。情報共有も大事だが、地域とのコミュニケーションという意味で、あまり怖がられてしまうと、地域の方も声をかけにくくなり、寂しいことだと思う。その辺のバランスが大変である。声をかけようと思ってくださる方だからこそ、こういった心配をしてくださっているのかと思う。

委員：新図書館は規模縮小ということだが、規模縮小の内容はこれから決めるのか。

山下生涯学習課長：具体的な内容については決まっていないが、図書館の肝となる蔵書部分にはなるべく手をつけたくない。いわゆる諸室として設置される会議室等の縮小、合併を検討している。大きな点では、1階と2階に確保した110台分の駐車場について、2階部分を取り除くと、おおよそを90台分になる。そうすることで、消防設備に泡消火設備を入れずに済むことから、縮減が図られ、1階部分の見通しも良くなる。ただ、縮小については、今申し上げたもの以外にも触っていかなければならない。先ほど申し上げた蔵書部分も冊数を減らすことになろうかと思うが、開架部分は現図書館の7万冊に対し、10万冊を目標として、残り16万冊を閉架に置くことで考えている。

委員：今の説明だと、これから規模の縮小する内容を決めることから、計画の練り直しとなる。入札、着工、完成については、相当先の期日になってしまうのか。

山下生涯学習課長：ゼロベースだと、かなり先になってしまうが、今の図面を活かすので、最速のスケジュールとしては、令和6年度に再設計、令和7年5月に開札、6月に議決、7月に着工するというスケジュールが最速だと考えている。3年、4年後になるというところではない。

委員：今予定している補助金については使えるのか。

山下生涯学習課長：今いただいている補助金、令和5年度の2億4,000万円余りは、工事着工の見込みがないことから、取り下げる方向で、国と協議している。まだ正式な決定はない。補助金については、規模が小さくなることから、改めて申請する形となる。

委員：図書館が先延ばしになると、文化ホールについても先延ばしになるのか。

山下生涯学習課長：文化ホールについてのスケジュールは把握していない。図書館は令和7年中の着工が最速のスケジュールになるかと思う。

高橋教育長：昨日、図書館に関する要望で3名の市民の方が来られた。内お一人は宇佐美での会合の責任者の太田さんという方で、部長も含めて対応した。お話はしっかり聞きながら、教育委員会として、皆さん教育委員が、新図書館は必要だという認識を全員持たれているということを伝えさせていただいた。規模の問題などいろいろあるが、市民への、将来への投資と考えると、図書館は必要であるという認識を強く持っている、と委員の皆さんの気持ちを代表してお伝えしたので、承知していただけたらと思う。補助金の問題もあるが、生涯学習課が中心となって、何とか図書館については建設できるよう、努力していきたい。また、いろいろな情報がありましたら、出していただくよう、お願

いしたい。

委員：11月11日のパネルディスカッションの中で、木梨さんという方は、西小の図書館について、どのようなことをおっしゃっていたのか。

山下生涯学習課長：旧西小学校の考え方としては、次の新しい図書館ができるまでのワンポイントという印象で受け取った。図書館というよりは、街の交流施設という印象である。給食室もあるので、給食室で調理をし、それを食べながら、みんなが集える、本を軸とした場所とのことだ。西小学校も建設から50年を経過し、その間、耐震補強も入れながらも、耐震レベルが下から2番目の数値が出ている。また、津波浸水地域でもある。避難等のために、エレベーターの設置も必要であると考ええると、新図書館としては少し現実的ではないと考えている。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：以前、話題のあったイノシシの件について、河津町の教育委員会に話を伺った。イノシシが出たという情報は、教育委員会ではなく、下田警察署から河津中学校に連絡があり、そこから教育委員会に話がいったようだ。イノシシが出た場所が、民家からも離れた場所だったことから、あまり騒ぐと児童生徒も混乱するとの判断から、基本的な指導のみとのことだ。難しい判断だと思うが、危険性がある場合には、きちんと公表していきたい。いろいろなことを想定しながら、危機対策課とも連携しながら、子どもの安全を図っていきたい。

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：12月の定例会については、12月21日（木曜日）午後2時30分を予定している。1月の定例会については、1月25日（木曜日）を予定とす

る。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会 1 1 月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 村上 恵宏

書 記 松岡 翔太